

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年1月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873700512		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 玉造の里	ユニット名	なのはな
所在地	〒311-3501 茨城県行方市芹沢1652-10		
自己評価作成日	平成24年7月30日	評価結果 市町村受理日	平成25年1月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0873700512-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年9月11日	評価確定日	平成24年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>事業所は、のどかで自然豊かな又、学校や保育所など教育や福祉の機関も周囲に存在する恵まれた環境にあります。保育園が隣接し、リビングや居室からは元気な園児の様子が見え穏やかな懐かしい時間を過ごすことが出来ます。交流事業も数多くあり双方ともに貴重な体験を積んでいます。</p> <p>関連施設には、病院(精神科ほか)、介護老人保健施設、介護老人福祉施設等の事業所も多く、利用者様に合ったサービスの選択肢が豊富です。医療面のバックアップに加え、認知症に関する専門治療も受けられます。利用条件に合致すれば、車椅子や寝たきりの方の受入も可能です。</p> <p>スタッフの定着率、学習意欲も高くチーム活動を通し協調性も優れていると自負しています。</p> <p>徐々に地域の中に存在する実感はありますが、依然として地域に根ざすところまでは行きません。介護に困っている方、認知症を理解したい方、福祉を学びたい方等の「よろず相談所」になれること、気軽に誰でも立ち寄れる場所となることを目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人の系列に病院があるほか介護老人福祉施設や地域密着型介護老人福祉施設、通所介護施設、保育園など多種多様の福祉施設を運営しており、医療や介護の面において利用者のニーズにあったケアサービスを提供することが可能となっているため、利用者や家族等の安心につながっている。</p> <p>事業所は保育園と子育て支援センターが隣接していて日常的に園児との交流を行うだけでなく、地域のボランティアを積極的に受け入れ、利用者はとても穏やかな表情で暮らしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念及び事業所の介護目標を朝礼時に全員で唱和し且つ玄関や共有スペースに掲げ日々実践しています。又、チーム活動の中に「介護理念・実践チーム」を設け取組みを強化しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人独自の理念に加えて、事業所独自の介護目標を全職員で話し合っ作成している。理念は玄関や居間、事務室に掲示するとともに、朝礼時に唱和したり、不定期ではあるが事業所内の「介護理念・実践チーム」が中心となって理念の実践状況についての検討会を開き、理念の共有と実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区に準会員として加入しています。地区のレクリエーションやお祭りに参加し交流を図っています。又、小学校や保育園との交流事業、ボランティアの受入、図書館利用、散歩時の挨拶等々地域とつながりながら暮らせるよう支援しています。	事業所は区の自治会に準会員として加入しており、利用者は職員と一緒に地域の祭りやバーベキューに参加している。事業所が開催する敬老会に地区の高齢者を招待している。利用者は毎週火曜日に隣接する保育園児と交流をしているほか、毎週日曜日に開放される地区の図書館に出かけ、本を借りたりお茶を頂いている。腹話術や習字のボランティアを受け入れ、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの受入、行事に地域の方を招くなどして認知症の理解や支援方法を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催、委員には、区長、民生委員、家族、有識者、行政、利用者を充て意見交換をしています。毎回、貴重な意見を頂戴し、サービス向上やスタッフの士気高揚につながっています。	運営推進会議は市職員や区長、民生委員などで2ヶ月に1回金曜日に開催している。会議では行事予定や利用者の状況を報告するとともに、事前に議題を決めて話し合っている。会議時に委員に利用者と同じ食事を提供し、食事に関する意見を聴取して味付けや献立に反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行方市介護支援専門員連絡協議会に参加又、市担当者や地域包括支援センター職員との随時の相互訪問や情報交換により協力関係を築くよう努めています。	市の介護福祉課や地域包括支援センターの職員に事業所の状況を報告したり、困難事例の相談にのってもらうなど、協力関係を構築している。 事業所は市の介護支援専門員連絡協議会に加入し、研修会や介護報酬改定などの情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内勉強会の開催や「身体拘束のない介護のための指針」を掲示し、正しい理解に努めています。現在、身体拘束者はありません。玄関、廊下の出入り口、居室(利用者がする場合を除く)ともに夜間以外は施錠しません。	事業所は身体拘束排除宣言を行い、「身体拘束のない介護のための指針」を事業所内に掲示するとともに、事業所内の身体拘束廃止(虐待防止)委員会を中心に研修会を定期的に開催し、具体的な身体拘束の行為や弊害について理解を深めている。 2階の非常口と居室の窓は安全確保のため家族等の同意を得て一部開閉制限や施錠をしているが、その他に関しては施錠せず、職員の見守りを徹底して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止(虐待防止)委員会を設置、勉強会を行っています。日常の会話にも虐待防止の話が多く出て、職員間には虐待防止の考えは浸透しており相互に注意を払うことを徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	事業所内では、2名が家族による成年後見制度を利用中です。職員は、施設内勉強会や種々の研修で見聞を広めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時は、文書及び口頭で十分説明し、納得の上契約に至っています。改定等は文書にてお知らせします。また、解約等事業所を退去される時は、今後の方向性や必要なサービスや利用法など利用者・家族が納得のいく将来を築けるよう支援しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口、第三者委員を設け、また年1回は家族アンケートを行っています。面会時は、意見や要望が出しやすい雰囲気づくり、声かけに努めています。全職員が利用者の普段の会話や代弁してくださる家族等の意見を聞こうとするよう努めています。	職員は日々の生活の中で利用者から要望を聴くとともに家族等の面会時や通院状況を電話で報告した際に家族等からの要望を汲みあげている。 年1回無記名の家族アンケートを実施するにあたり、家族等の意見が汲みあげられるよう全職員でアンケート内容を検討しているが、率直な意見を汲みあげるまでには至っていない。 事業所は苦情相談受付担当者の他に外部による第三者委員会を設置している。	思考錯誤しながら家族アンケートを実施しているが、なかなか率直な意見があがらないため、家族等が意見や要望を出し易くなるよう、アンケートの配布や回収は第三者委員会が行い、事業所には誰からの回答か特定できないような工夫をしたり、家族会を開催することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月職員会議を開催し、職員の意見を聞いているほか、委員会やチーム活動を通し積極的に意見交換し出した意見や提案を運営に反映させています。	管理者は毎月職員会議を開催し、職員の意見や要望を汲みあげるとともに、いつでも職員の相談にのっている。 管理者は職員から出た意見等を月1回開催する施設長会議で報告している。 職員が企画した潮来のあやめ祭りへの外出計画は、利用者の状態に合わせて実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規程により職場環境や条件の整備に努めています。職員には、公平かつ平等に研修参加や資格取得の機会を提供し又、介護職員処遇改善交付金を活用しやりがいや向上心を持って就労できるよう図っています。施設内には、安全衛生推進者を置き環境や条件の管理をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には、研修委員会が設置されており、スキルアップ研修、上級救命講習会が開催されています。採用時研修や外部研修にも参加します。事業所内には、研修・学習委員会を設け、職員の学習機会を自ら計画・実践し相互に伸びていけるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人傘下の同業種との交流や学習の機会はあるがサービスの質の向上に努めていますが、地域の同業者とのネットワークづくり等には至っていません。地域の介護保険施設等へは、情報交換や見学で訪問したり、市や周辺地域の行政等主催の研修に参加し同業種との交流を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人や家族と会って、心身の状況や本人の思い、要望等を伺い、職員が本人に受け容れられる関係を作れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでの経緯や困っていること、不安なこと、家族の要望等に耳を傾け信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があつた時、此处が本人や家族が望むサービスを提供できるか判断し、他のサービスが望ましいとなつた時は、関係機関と連携し他につなぐよう努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り、共に生活できるように一緒に清掃や食事をしたりと「一緒に生活する」環境づくりに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族の絆の大切さを理解しており、日常の様子を文書や電話、面会時を利用してお知らせします。家族も通信、外泊、外出、面会等を通し利用者を支える関係が途切れないよう支援して下さっており、施設、家族がともに本人を支える良い関係が築けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が入居前より通院していた病院や自宅への外出援助、家族との外食、地域のお祭りや行事に参加するなど以前と変わらない生活が送れるように支援しています。	利用者の家族等や知人などが来訪したり、家族等の協力で利用者は地元の祭りや墓参りに出かけているほか自宅を見に帰るなど、利用者を取り巻く人や場所との関係が途切れないよう支援している。 職員は利用者が孤立しないよう家族等からの電話の取り次ぎを行ったり、年賀状や暑中見舞いの葉書を一緒に作成し、利用者に代わって投函している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は、居室に籠もることなく、リビングで過ごされることが多く、お茶に会話が弾みとても和やかな雰囲気です。レクリエーション参加を促す声かけをしてくれるなど支え合う場面も多く見受けられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、病院や施設を訪問したり、その後の経過を家族に問い合わせるなどします。利用終了が最後の関わりではなく、その後も相談やサービス提供に至るまで出来ることの支援をするよう努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりの中から本人の要望や希望を伺い、その都度取り入れるようにしています。困難な場合は、家族や職員間で話し合い、本人の希望に近づくよう努めています。	管理者は入居前に利用者の自宅等を訪問し、利用者や家族等から「できること」や「したいこと」、「どうなりたいか」などの情報を得ている。 職員は利用者との日々の係わりの中で表情やしぐさ、言葉の端から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前面接で本人、家族や担当ケアマネ、その他関係者から情報を収集し、これまでの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく自由に過ごして頂くことが基本です。毎日各人毎に「アセスメントシート」(1日の生活の経過)を作成、心身の状態や経過、行動を記録し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族等の意向を伺い作成しています。半年に1回モニタリングを実施、全職員で介護計画を見直すほか状態に変化があった時は、随時現状に合った介護計画を作成します。	利用者や家族等、職員などの意向を聴取したうえで半年に1度モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、医師からの情報や意見を基に随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録として、身体状況、生活行動等具体的に記入しています。記録を通して情報を共有し統一されたケアに繋がっています。記録に関する勉強会を実施し、記録の重要性を職員全員が理解しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望に対し柔軟な考えを持ちその時々生まれるニーズに対応できるよう支援しています。通院や外出、買物等介護保険対象外サービスも必要に応じて行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や行方市介護支援専門員連絡協議会や行政等との情報交換を通し、地域資源を把握します。民生委員や区、図書館、スーパー、ボランティア、消防署などを資源として活用しながら豊かな生活を送れるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に本人、家族の希望を伺います。利用前のかかりつけ医への受診が基本ですが、その時の状態により納得が得られた医療機関とする場合もあります。依頼があれば職員が付き添い、結果を家族等に報告します。緊急時については、利用時に医療機関をどこにするか話し合い了解を得ておきます。	基本的に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を主治医としている。 かかりつけ医がない場合は、利用者や家族等に説明して同意を得たうえで運営母体の医療機関の医師をかかりつけ医としている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職員の配置はありません。かかりつけ医や協力病院及び法人傘下事業所の看護職と連絡を取り相談や知識を得たりしながら、日頃の健康管理や受診、処置等について支援を受けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はマメに様子を見に行き医療機関(関係者)より情報提供の機会を多く設けています。家族への病状説明時に同席させて頂き治療方針の共有,退院後の対処方についても相談しながら行います。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を作成しているが、体制が未整備であり事業所では現段階では重度化や終末期のケアは行わないことを契約時に利用者,家族等に説明し承諾を得ています。	今後看取りをする場合に備えて看取りに関する指針や同意書、見取り対応マニュアルを作成しているが、職員の人員体制が整備されてないことから、現在事業所では終末期ケアを行わないことを契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。	利用者や家族等の見取りの要望に備え、事業所内で終末期ケアができるよう職員のスキルの向上や、24時間体制の訪問看護ステーションとの連携を構築することを提案する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人において、上級救命講習会を全職員が受講し救命技能を有することが認定されています。AEDの設置もあります。マニュアルを活用し研鑽を積んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を中心とした避難訓練を消防署立会いのもと年2回実施のほか、事業所でも随時避難誘導訓練を行っています。災害の発生に備え食糧や飲料水を備蓄しています。地域の消防団に施設内立入りを要請、回覧で訓練見学を呼びかけますが十分ではありません。	消防署指導のもと夜間を想定した避難訓練を年2回実施するほか、事業所独自の自主訓練をおおむね毎月実施するとともに、避難訓練実施記録を作成している。 震災や夜間を想定した避難訓練を実施したことで新たな課題が明らかになり、訓練時にも懐中電灯を持つよう改善をした。 避難訓練を実施するにあたり、地域住民や消防団に参加を呼びかけているが協力を得るまでには至っていない。 災害に備えてラーメンや缶詰、飲料水、飴、ろうそくなどを備蓄している。	地域住民の参加を得た避難訓練にするため、運営推進会議で区長に呼びかけたり、消防署職員や地域住民にも運営推進会議に出席してもらい、事業所の災害対策への取り組みに理解が得られるよう働きかけることを提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーに配慮して、さりげない言葉かけや誘導をしています。個人情報の取り扱いについては、「個人情報に関する指針」に沿って行っています。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した声かけやケアに努めている。 契約書等の書類に関しては事務室で一元的に管理し、情報の漏洩防止に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望の表出は利用者に寄り添い、言動の見守り等、職員の働き方で見えてくると考えます。自身の意思を伝えられない利用者には、表情を見ながら思いを察しています。	/		/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や都合を聞きながら希望に副った生活ができるよう努めています。食事や起床の時間など体調に合わせ無理のないように支援しています。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族に好みを伺い、買物と一緒に外出し購入したり、家族に持参して頂いています。希望により訪問理容や美容室経営の家族の協力でおしゃれを楽しむこともできます。室内の片づけを一緒にしたり、その日の服装を自ら選べる支援もしています。	/		/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	和やかな雰囲気の中で「美味しい」と感謝の声が聞こえてきます。利用者と職員が協力して一緒に準備や片付けを行っています。お花見等の行事には、利用者と一緒に献立を考えるなど食事が楽しめるように支援しています。	利用者は能力に応じて下膳やテーブル拭き、豆の皮むきなどを職員と一緒にしている。 敬老会や花見などの行事の際は、利用者と職員は話し合っって行事にちなんだ献立を決定している。 普段の献立は外部に委託しているが、利用者の苦手な献立の場合は職員が代替え食を用意するなど工夫をしている。 地域住民から頂いた季節の野菜を食材に追加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は個々のアセスメントシートに記録し把握します。献立等は委託し、栄養士により管理されます。本人に合わせた形状、医師の指示による量を提供、お茶等は時間で用意するほか随時自由に摂れるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	物品準備や声かけ、見守り、誘導など本人の力に応じ毎食後対応します。不十分な方には、毎食後職員が介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握するとともに、時間やタイミングを見計らって声かけやトイレ誘導をしています。尿意や便意のない方でも定時又は様子を伺いながら、トイレで排泄できるよう支援しています。	職員はアセスメントシートや排泄チェック表をもとに、利用者一人ひとりに合ったトイレ誘導や声かけを行い、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 おむつの使用を減らすためにリハビリパンツを使用したり、おむつを使用している利用者でもポータブルトイレやトイレでの排泄に心がけて誘導している。 夜間おむつを使用している利用者でもポータブルトイレで排泄ができるよう支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し有無を確認しています。体操や散歩、レクリエーションによる運動や水分摂取量を増やす、ヨーグルトやヤクルトの摂取で便秘を予防するよう支援しています。医師による下剤服用の利用者もいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に副って体調を確認しながら支援しています。体調不良時には、清拭、希望者の随時のシャワー浴に対応しています。	1日おきに入浴支援を行っているが、希望にそって毎日入浴ができる体制となっている。 入浴を拒む利用者や体調不良時には、足浴や清拭、シャワー浴など、個別に工夫を凝らしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態や希望、習慣に合わせて、安眠、休息が出来るよう室内の温度や明るさ、音などに配慮しています。疲労や気分により、日中でも自室で休息できるよう気を配ります。日常的に安定した穏やかな心身状態で居られるような支援を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、ファイルに綴じ職員は何時でも確認できます。安全に服用できるよう、薬を用意(セット)する時は、2人で確認し、服用時には名前、日付、服薬時間帯を声に出し確認するなど誤った服用をしないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を重視し、能力を活かした役割や生き甲斐の持てる生活ができるよう介護計画を立てて実践しています。現在、出来ていることが継続できる支援を重要視しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者個々の希望される時に、買物・散歩・外気浴等可能な限り支援するように努めています。家族による外出も日常的に行われ協力があります。	天気の良い日には朝・夕散歩に出かけたり外気浴をしているほか、2台の公用車でドライブや買い物など、利用者の希望にそった外出支援をしている。 職員は季節が感じられるよう花見や菖蒲祭りなどの外出を計画し、家族等の協力を得て出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者よりお金を持ちたいとの希望はないが、希望があつた時は、家族と相談の上希望に添えるよう支援したいと考えます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも自由に電話をしたり、手紙のやり取りが出来ます。自ら利用できない方には、職員が日頃の状況を伝えたり、「思い」を代弁しています。特に「正月」「ふみの日」には、本人による葉書(書けない方は名前だけでも)を出しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の、温度・明るさ・テレビや音楽の音量に配慮しています。リビングには、季節の花を置き、季節を感じられる作品を一緒に作り飾って楽しむなど居心地の良い空間となるよう工夫しています。また、庭には季節の花や野菜を育て職員と一緒に収穫し楽しんでいます。	居間兼食堂はとても明るく開放的な造りとなっており、隣接する保育園の園児が楽しく遊ぶ光景が眺められる。 職員は共用空間に季節の花を飾ったり、職員と利用者が一緒に作った季節が感じられる手芸品を飾るよう努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりが良く、外の景色が良く見えて自然の緑や子供たちの遊ぶ姿を見ることが出来ます。リビングでは、気の合う利用者が話しやすいように席の配置に工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い馴染んだタンスや小物、家族の写真、家族や保育園児たちの作った作品などを置く、飾るなどして利用者が居心地よく過ごせるよう工夫しています。	職員は利用者や家族等と相談して使い慣れたテレビや仏壇、テーブルなどを持ち込んでもらっている。 居室には備え付けのベッドがあるが、利用者の体調や行動パターンに応じてベッドを布団に変えたり、転倒の危険性がある利用者の場合はセンサーを設置するなど、安全に暮らせるよう工夫をしている。 備え付けのタンスを納戸に入れるなど、それぞれに居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室には目印を付けるなど工夫しています。状態により布団の生活の方もいます。出来ること、分かることが継続できる介護、寄り添う介護に努めています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 玉造の里

作成日 平成25年1月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	思考錯誤しながら家族アンケートを実施しているが、なかなか率直な意見があがらないため、家族等が意見や要望を出し易くなるよう、アンケートの配布や回収は第三者委員会が行い、事業所には誰からの回答か特定できないような工夫をしたり、家族会を開催することを期待する。	平成24年11月実施のアンケートは、回収率73% <small>(注1)</small> 。家族会設置については、大多数が、反対若しくは分からないとの回答であった。よって、アンケートの回答法や回収先を他に委託することにより改善していきたい。	①アンケートの記入方の工夫 ②回収先を法人事務局とする	平成25年度実施から
2		利用者や家族等の看取りの要望に備え、事業所内で終末期ケアができるよう職員のスキルの向上や24時間体制の訪問看護ステーションとの連携を構築することを提案する。	ご家族等の要望には、応えたいと考えているが、最期をどうしたいかという難しい問いには、ご家族等も里での生活ぶりを見ながら検討すると思われるので時間の猶予をいただきたい。	①終末期ケアができるよう法人内医療職を招いて勉強会を開催する。 ②ご家族等に看取りを望むかアンケートを実施する。	平成25年度に勉強会. アンケートを実施
3		地域住民の参加を得た避難訓練にするため、運営推進会議で区長に呼びかけたり、消防署職員や地域住民にも運営推進会議に出席してもらい、事業所の災害対策への取り組みに理解が得られるよう働きかけることを提案する。	地域住民に里を足を運んで頂く機会を設ける。	①地元消防団員の施設訪問を依頼する。 ②避難訓練実施の回覧板を回す。	平成25年度から実施
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。